

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
工期	令和6年4月25日 ~ 令和7年3月31日		作成者	小瀬 裕之
作業名称	円形水路用グレーチング取替工	作業手順書	作成年月日	令和4年4月22日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	材料運搬車両 1台 円形水路用グレーチング(グレーチング、受枠、固定ボルト)、合材		現場責任者	自署サイン
使用工具 機器 (大きさ等々は 具体的な寸法を 記す)	インパクト、ラチェット、ホウキ、ブロワー、サンダー(鉄刃、コンクリート刃)、コンクリートカッター ハンマードリル、スコップ、六角レンチ、パール、ハンドタンパー		元請確認	
保護具	ヘルメット、チョッキ、安全靴、手袋(刃物作業時は耐切削用)、警笛		改正年月日	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	準中型免許(8t未満)、振動工具(特)		作業順序 1 準備作業 2 積み込み 3 運搬 4 現地確認 5 撤去 6 設置 7 後片付け 8	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	責任者 1人、運転手 人、作業員 人 合計 名			
作業手順 周知会	作業責任者(職長)	周知会実施日		
参加者 サイン (記録)				

リスクの見積り	重大性			組み合わせ ○○	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○△、△○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○×、△△、×△	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	△×、×△	3:中程度	職長が確認
				××	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
リスクレベル	5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知					

作業項目	内容	留意事項	危険性・有害性の洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	危険性・有害性の除去・低減のための実施すべき事項の特定
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						(防止対策)
準備作業									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	機械・道具の点検	日常点検により機械・道具の動作の確認							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用ブレークの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 <b>工事車両がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。</b> 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 <b>車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。</b>							
積み込み									
	材料、機材の積み込み	材料運搬車に積み込み	グレーチングを積み込む際に、手・指を挟み負傷する。	△	×	△×	4		手袋の着用と、降ろす際は一気に降ろさず端から降ろす。
	荷の固定を行う	トラック系はロープ、ハイエース系は重しにて固定する。							
運搬									
	松ノ木PA	高速道路、側道を使用し運搬する。	カーブで急ハンドルを切り荷崩れを起こす。	△	×	△×	4		運転中は急ハンドルを切るような運転を行わなくてもいいように、周囲確認や速度の超過に気を付ける。
現地確認									
	作業箇所確認	現地KYにより危険のポイントを確認							
	周辺安全確認	構造物の位置を確認							
撤去									
	施工箇所のマーキング	斫る箇所のマーキングを行う。							
	舗装撤去	ハンマードリルを使用し、舗装を撤去する。	舗装撤去時に、隣接している作業員と接触し負傷させる。	△	×	△×	4		隣接作業がある場合は声掛けを行い優先順位をつけ、同時作業は行わない。
	グレーチング、受枠の撤去	固定ボルトを外し、グレーチング・受枠を撤去する。	グレーチング・受枠を外す時に、力任せに外そうとし、腰などを負傷する。	△	△	△△	3		ボルトを外し終わっていることを確認したら、パール等で少し浮き上がらせ、持ち上ることを確認した後取り外す。
	受枠撤去後の清掃	ホウキやブロワーで、受枠を外した箇所の清掃を行う。							
設置									
	受枠の設置	アンカーの位置を確認しながら受枠を設置しボルト締めを行う。	ボルトを設置する時にボルト・ワッシャー・工具を円形水路用に落とす。	△	○	△○	2		受枠の隙間を養生テープなどで塞ぎ、物が落ちないようにする。
	グレーチングの設置	受枠にグレーチングをはめ込みボルトで固定し、樹脂製キャップを取り付ける。	グレーチングをはめ込む際に受枠とグレーチングの間に指を挟み負傷する。	△	△	△△	3		グレーチングをはめ込む際は片側からはめ込み、指を挟まないよう枕木などを使用する。(2人で行う際は声掛けを行う)
	舗設	斫った箇所を合材にて舗設し、タンパーで締め固める。	タンパーを使用時に、隣接する作業員の手足を負傷させる。	△	×	△×	4		安全靴の着用。隣接作業がある場合は声掛けをし優先順位をつけ、同時作業を行わない。
	清掃	斫り片やゴミなどの清掃を行う。							
後片付け									
	現場確認	ボルトの締め忘れや忘れ物がないか確認する。							
	車両・道具整備・後片付け	車両の整備 道具の損傷有無確認							工事車両を撤去した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事